

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：田野 晴子

研究分野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学	地域看護学、公衆衛生看護学
学位	最終学歴
修士	兵庫県立大学大学院看護学研究科看護学専攻博士前期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 看護学部の看護学技術演習におけるティーチングアシスタント	2019年1月	ティーチングアシスタントとして、兵庫県立大学看護学部において看護学技術演習に関する学生への助言を行った。
2. 看護学部の講義におけるティーチングアシスタント	2018年4月	ティーチングアシスタントとして、兵庫県立大学看護学部においてコミュニティ・公衆衛生看護概論の講義内にて、家庭訪問事例に関する学生への助言を行った。
3. 各保健事業における事例検討会	2011年4月2016年3月	母子保健分野および精神保健分野の事業において適切な時期での実務者間での事例検討に加え、それぞれ年1回の保健医療福祉の関係職種間の事例検討会を開催し、対応困難事例等について保健医療福祉のチームアプローチのあり方等を検討し、対象者のQOL向上の支援や知識・技術の向上を目指した。
4. 保健所における地域住民への保健活動の実践	2011年4月2016年3月	母子保健分野では疾病や障害をもつ児や家族への支援を、難病保健分野では進行性の神経筋難病の方への支援を家庭訪問、相談事業、当事者や家族会の活動を通して実践を積み上げた。感染症に関しては、地域住民への予防に向けた知識の普及・啓発、発症者への支援と二次感染予防への取り組みを行い、地域住民の健康の保持増進に努めた。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 保健師免許	2009年12月～現在に至る	
2. 看護師免許	2003年4月～現在に至る	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 兵庫県令和元年度保健師現任教員計画作成及びプリセプター研修会 ファシリテーター	2019年6月	兵庫県令和元年度保健師現任教員計画作成及びプリセプター研修会 ファシリテーターにおいて、ファシリテーターを担当した。
2. 寝屋川市保健師人材育成事業 オブザーバー	2019年5月～現在に至る	寝屋川市保健師人材育成事業のオブザーバーとして、ワーキングや研修会などに参加し、人材育成マニュアル作成のためのキャリアラダーの検討に携わっている。
3. 難病患者の医療と介護に関する実態調査	2015年6月2016年3月	医療依存度の高い神経筋難病の患者を対象に地域における医療（往診、訪問看護）および介護（通所介護、訪問介護）等の実態について調査を行い、調査結果については北河内の4保健所にて内容の検討をし、難病患者の地域ケアシステムの構築のための基礎資料とした。
4. 感染症に関する地域住民の意識調査	2013年7月	感染症対策（性感染症・HIV等）の一環として、地域で生活する青年期の住民を対象に、質問紙調査を実施した。調査結果については保健所内にて内容の検討をし、今後の感染症検査での留意事項や支援活動に反映させた。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 多職種連携による生活習慣病予防を意図した 学童期へのポピュレーションアプローチにおける 行政保健師の機能 外出に関する実態調査	単	2011年3月	兵庫県立大学大学院看護学研究科	行政保健師の学童期生活習慣病予防対策における意図を明らかにすることを目的とし、活動プロセスと意図を聴取した。実践過程の聞き取りと既存資料から情報収集を行い、保健師の意図を質的に分析し、学童期の生活習慣病予防活動での保健師の意図を明らかにすることに取り組んだ。結果から保健師は、一人ひとりの子どもから活動を地域へと広げ、対象の主体性の支援のための環境づくりへと活動を展開していることが明らかとなった。
3 学術論文				
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 多職種連携による生活習慣病予防を意図した 学童期へのポピュレーションアプローチにおける 行政保健師の機能 外出に関する実態調査	単	2011年10月	第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田, 2011年10月	行政保健師の学童期生活習慣病予防対策における意図を明らかにすることを目的とし、活動プロセスと意図を聴取した。実践過程の聞き取りと既存資料から情報収集を行い、保健師の意図を質的に分析し、学童期の生活習慣病予防活動での保健師の意図を明らかにすることに取り組んだ。結果から保健師は、一人ひとりの子どもから活動を地域へと広げ、対象の主体性の支援のための環境づくりへと活動を展開していることが明らかとなった。
2. A市Bデイケアサービスに通所する後期高齢者の 外出に関する実態調査	共	2009年10月	第68回日本公衆衛生学会総会, 奈良, 2009年10月	外出状況の実態を知り地域在住の後期高齢者の生活について具体的な知識を持つことを目的とし、聞き取り調査を実施した。結果、閉じこもり予防には身体機能だけでなく心理面や社会面を含め生活の全体像を捉える事が必要であると示唆された。外出の機会を持ちにくい人たちにとってよりよい環境のサポートネットワークを作り出す必要性、後期高齢者の外出頻度は物的・人的環境のみならず心理面も外出行動に影響することが明らかになった。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：田野晴子、成木弘子
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2019年4月～現在に至る	日本公衆衛生学会			
2. 2019年4月～現在に至る	日本看護協会			
3. 2019年4月～現在に至る	日本地域看護学会			